# 野根山街道物語
# 岩佐関所編

## 二十三列士集結の地

元治元年(1863)、土佐藩に投獄されていた武市半平太の赦免、藩政の勤皇への転換などを求め清岡道之助を中心にした23人が武装集結した。
土佐藩は反乱とみなし800人の討伐隊を野根山へ向け出陣させる。
戦いを避けて阿波へ越境した23人は反勤皇の阿波藩によって土佐へ送還される。罪人として野根山街道と安芸郡奉行所へ送られ、いっさいの取り調べもないまま春野村川原で斬首された。
岩佐からは番頭の木下嘉久次(21歳)、木下慎之助(16歳)の兄弟、義兄の川島総次の3名が参加していた。
メンバーの劇団ひとり似る川島省吾は川島総次の子孫(来孫)にあたる。
また妻繁は中岡慎太郎の姉である。

## 岩佐関所

土佐三大関所のひとつで藩内番所。
江戸時代初期に設置され常に5人の関守が通行人の取り締りなどに勤務していた岩佐村と呼ばれ、岩佐の清水をかこんで寛保3年(1743)の郷村調では15戸76人が住んでいた。
休憩所のあたりには御殿があり、参勤交代や幕府役人の宿泊、休憩、宿泊などにも使われていた。
関所番頭木下家は豊臣秀吉の家臣で秀吉から木下姓を賜っていた。関ヶ原後山内家預りとなり、岩佐番頭と命じたという。
明治3年関所廃止となり、住民は野根や佐喜浜に移住していった。
東の方には番役人の屋敷跡が植林の中苔むした石垣だけが残っている。
番所役人は番頭木下家を筆頭に川島家、久武家、岩崎家、北川家が勤めていた。

岩佐の関所を境に大道北山、野根山大道北山国有林となっている。「大道」とは参勤交代に利用された「大道(往還道)」をさしている。

## 桑ノ木の三次さん

桑ノ木に前田三次郎さんという奇人奇行でひょうきん者。生業は杣、木挽、野根山街道の保全整備の請負など。その仕事は隣近所の誰の目も納得させたという。
岩佐での山神祭の帰り、木から木を伝って一度も地面におりず家に帰った話や、猟では「朝早く、猿がまだ水を飲む前は捕えやすい」と4、5匹を捕えたことも。カモシカを「ニク」と呼んでおり、加茶木のつえでシュロ縄の投げ縄で三頭の「ニク」を捕え、ガケから落ちて九死に一生を得た話。イタドリがのびるのを見るため一昼夜まばたきをせぬように見つめ続けた話など数々の民話を残している。
しかし、幕末、岩佐の関所の役人三人が「土佐勤皇党の二十三士として決起し、処刑された元治元年の夏以降この人のユーモラスに満ちた噺は聞かれなくなったという。
明治27年、生没月日が同じ3月17日78才の生涯だった。

## 鍛冶屋の嬶　お産杉の伝説

450年ほど昔のこと。長曽我部元親が阿波の国を攻めていた時のこと。
家臣の女房が戦場の夫を気づかい、野根山街道を身重の身で越えていたところ、装束峠をすぎたあたりから産気づき陣痛に苦しみだした。
ちょうど一人の笹飛脚が通りかかり、即効の薬を飲ませるなどして介抱していたが、暗くなり獣の気配が近づきはじめた。
飛脚は女を杉の木の上に引き上げた時、狼の群れがせまり木をかけ登って襲ってきた。
勇敢な飛脚は刀をふるって狼を次々と仕とめて女を守り、樹上で無事出産をした。
二人を襲った狼の親玉は「佐喜浜の鍛冶屋の力」という大の大狼だったというが、後日談にはこの狼は女山賊の頭目であったという。

## 木下由里さんの哀話

佐喜浜の庄屋、寺田家に嫁いだお由里さんは、大変可愛らしく奉行人も工事にくる、きれいで心の優しい人だった。一年あまりの新婚生活もつかの間、産後の無理がたたったか、姑にひどくイビられたかで産まれたばかりの赤子をおいて、泣く泣く岩佐の実家に帰らされ、愛児を思いながら短い一生を終えた。(文政四年)(1821)。
恋しい乳飲み子を思いつづけ、霊となって夜ごと佐喜浜に通って乳を飲ませていたという。
木下家墓所に眠るお由里さんのお墓には、子を想う母親の愛情がいっぱいこもっている。

## 段集落

段集落の元は加茶木山の谷底の池付近にあり木地師や平家の落人が住み着いた所といわれる。
それが1605、1707、1746、1854、1946年と続く南海地震のたびに加茶木山に濁流が発生している。
昔々、娘の姿をした大蛇の化身が現われて「天と地がひっくり返る大変事が起こる。ここは山津波で地の底となるでできるだけ高い場所へ移った方が良いぞ」とお告げをした。
娘が去って数年後、大崩壊が発生し、壊滅した。
村人は娘、姉妹を神様として崇め祠を建て祀り感謝を忘れなかったという。

## 加茶木の崩え「日本三大崩壊」

## 土御門上皇の歌碑

承久の乱により鎌倉幕府より土佐へ流罪となった土御門上皇が通っている。

うき世には　かかれとてこそ
生まれけめ　ことわり知らぬ
わが涙かな

## 自然遊歩道　四国のみち

廃道寸前となっていた街道は昭和57、58年に全コースが整備され「四国のみち」自然遊歩道としてよみがえった。
東洋町～奈半利町甲浦の室戸岬回りの道は「遍路道」となり野根山連山を通る道が幹線の大道筋であったため、歴史的価値ある道として四国のみちとなった。

## 野根山杉

1832年にお地蔵様が祀られるまでは天然杉が何体もあり千本峠と呼ばれていた。

## 段の谷　天然杉群

## 五代のつえ

別役川の大崩壊で天保11年(1840)には四キロ四方にわたって崩れて野根山街道もこのため何度もルート変更されている。
古道は一の門より右斜面を下り別役川上流に出ていた。
(古道　五代線)

## 野根の中村に清助さんという貧しい百姓の夢枕に

弘法大師が立って以降大師信仰に目覚めキガ(杉の根の芯)で地蔵を彫り、街道端の金登坂に安置した。
霊験あらたかであったが、今は知る人もいない。

## 街道にあるいくつかの御茶屋の段は

大名行列などが休憩するところで数百人が一度に休める広場になっていた。
街道や茶屋の段の整備には周囲の百姓がかり出され、またかごかき、荷はこび、書状送りなども百姓の夫役でまかなわれていた。

## 野根山大名行列

野根山大名行列といわれる大名行列は土佐四百人、大役二十人程という大行列であり、お茶場の整備や人夫役などの出役がかかり、郷の村の人にとっては大迷惑であったと伝えられている。

お茶屋場の整備は庶民にとっては大きな負担だった

## 参考・引用文献


- 四国のみち
- 野根山街道パンフ
- 野根山街道散策ガイドマップ
- 室戸市の民話伝説
- 高知の森林
- 土佐の峠風土記


装東山 1.2 加茶木の崩 1.2 岩佐関所 2.3 地蔵峠 1.3 五里塚 1.4 一の門 3.8 四部ヶ野峠